

ぱーとなー

2008年3月
第76号

耳原総合病院の理念

耳原総合病院はこんな医療をめざしています

◎ 安全・安心・信頼の医療

私たちは患者様とともに力を合わせて医療をすすめます

◎ 無差別平等の医療

私たちは人権を尊重した医療をすすめます

◎ 患者負担の少ない医療

私たちは室料差額はいただきません

◎ 地域とともに歩む専門職の育成

人権感覚をもつ専門職を養成します

今回は、外科医山口拓也
医師に、『鼠径ヘルニアの
手術』について説明して
いただきます。

鼠径ヘルニアの手術

成人の鼠径ヘルニアとは・・・

「鼠径」とは、太ももの付け根の部分のことをいい、「ヘルニア」とは、体の組織が正しい位置からはみ出した状態をいいます。「鼠径ヘルニア」とは、鼠径部（太ももの付け根）の筋肉や筋膜が弱くなり、筋肉と筋肉の間から腹膜がでてしまいヘルニア嚢と呼ばれる袋ができる病気です。腹膜は内臓を包んでいる大きな袋なので、本来ならお腹の中にあるはずの腸などの一部が、鼠径部の筋膜の間から皮膚の下に出てくる病気です。一般の方には「脱腸」と呼ばれている病気です。

腸などがヘルニア嚢にはまり込んで脱出したままの状態になると「嵌頓」と呼ばれ、強い痛みを伴い、腸閉塞を起こす危険もあります。「嵌頓」を起こさなくても放置すればヘルニア嚢自体が大きくなることが多く、歩行時の痛みが出現したりして、生活に支障をきたすことがあります。

成人鼠径ヘルニアの手術方法

● 麻酔法

局所麻酔にて行います。局所麻酔とは手術操作のおよぶ部位のみに麻酔薬を注入する方法で安全性が高く術後の負担も少なくすすみます。術中は意識がはっきりしているため不安を感じられる方もおられますので、安全性にも配慮し麻酔科の管理のもと少量の鎮静薬を併用し術中の緊張をすこしでも和らげるよう心掛けております。

● 手術の実際

麻酔の後、手術が始まります。ヘルニアの部位に約4cmの皮膚切開を加えヘルニア門（ヘルニア脱出口）に到達した後、ヘルニア門に人工補強材（メッシュ・プラグ）を挿入しヘルニア門を閉鎖します。その後、筋膜、皮膚を縫合し手術が終了します。手術時間は約1時間程です。

● メッシュ・プラグ法、ダイレクトクーゲル法

術後の“つっぱり”を完全になくすために、1990年代に米国で開発された方法です。欠損した筋肉や筋膜を縫い合わせるかわりに、人工補強材のプラグ（栓）で脱

出した腸を押し戻し、そのままヘルニアの穴にフタをするように入れ、さらにメッシュ状のシートを鼠径管の口や筋膜の弱い部分にあてがって補強します。

円錐形をした白い花びら状で大きさは直径3～5cm。ヘルニアの穴の開き具合によってサイズを選択しますが、花びらを内側にして埋め込み、筋膜の周りに縫い込んでふさぎます。その後体内に残したメッシュに線維芽組織が成長、欠損部を硬く覆うようになります。術後の痛みやつっぱり感が少なく、術後4時間の安静でトイレに行ったり食事もできます。また、加齢によって筋肉や筋膜が弱くなっても補強材があるので再発を防ぎます（再発率は1%程度）。局所麻酔で手術も短時間ですむため、短期入院が可能です。「つっぱりがない」ことを英語でtension freeということから「テンション・フリー法」とも呼ばれています。

日本において、鼠径ヘルニアの手術は長い間、バッチーニ法などの従来法が主流でしたが、現在は60%がこのメッシュ&プラグ法によるものです。



社会復帰までの期間

一概には言えませんが、日常生活（散歩、軽い運動、庭いじり）や机に座ってする事務などは患者さんの判断で再開します。個人差はありますが、通常約5日から10日間が目安になります。術後3週間を過ぎれば、ゴルフなどそれ程激しくない運動であれば再開することが出来ます。詳しいことは耳原総合病院外科外来にてご相談ください。

（外科医 山口 拓也）

※ 現在、鼠径ヘルニアの日帰り手術は行なっておりません。
短期間の入院で行なっております。

耳原総合病院地域医療室
電話 072-241-0324
Fax ①072-241-0208
Fax ②072-241-0670

☆☆☆お電話で患者さまのご都合に合わせて予約いただけます。

折り返しFAXにて予約票をお送りします。☆☆☆

☆☆☆事前にカルテを準備してお待ちします。

カルテ作成に必要な情報をFAXして下さい。☆☆☆

☆☆☆予約当日、患者さまが受診の際

① 保険証②診療情報提供書③上記予約票をご持参下さい。☆☆☆